

日本共産党

西宮市会報告

2016年4月 NO.103

発行/ 日本共産党西宮市会議員団 西宮市六湛寺町10番3号 (西宮市役所内)

Eメール: nmc30547@nishi.or.jp TEL.0798-35-3368 FAX.0798-22-7815

ホームページ <http://nishinomiya.jcp-giin.net/>3月
予算議会

委員会担当と議会役職



杉山たかのり

団長
市監査委員
総務常任委員
☎35-1682



佐藤みち子

幹事長
健康福祉常任委員
都市計画審議会委員
☎42-2856



上田さち子

阪神水道企業団監査委員
建設常任委員
☎35-2813



野口あけみ

教育こども常任委員会副委員長
広報広聴特別委員会副委員長
☎34-7329



まつお 正秀

幹事
民生常任委員会副委員長
☎73-0775



庄本 けんじ

建設常任委員
社会福祉審議会委員
☎42-0921

(市外局番は0798)

2016年度の市予算は一般・特別会計合わせて3155億7800万円です。一般財源の総額は1126億円にもなり、無駄使いをしなければ暮らしを守る財源は十分あります。

日本共産党西宮市会議員団は各予算分科会で市民の暮らしを守るために奮闘しました。



佐藤みち子議員

代表質問に立った佐藤みち子議員は、日本社会では子どもから高齢者まで貧困が広がっており西宮市も例外ではないと指摘。また、2016年度の予算では、個人市民税が落ち込み、市民の所得が大きく減っていること、企業業績

が好調なため配当金や株式譲渡所得割交付金が増えていることから貧困と格差が拡大している。市長は市民の暮らしについてどう認識しているかと、質しました。市長は「個人市民税は給与所得の増が引き続き見込まれ増加傾向である。一方単身高齢者の増加で生活保護世帯数、支給額の増加傾向が続いている。市として把握しているデータ等から判断される市民それぞれの暮らしは多様であり、一様な判断はすべきでない」と答弁しました。市民個人の多様性は認めるべきものですが、暮らしについ

ては多様性ではなく、貧困と格差が広がっていることを市長は認識し、暮らしを守る対策を実行すべきです。次に、佐藤議員は、日本では16%

、6人に1人の子どもが貧困状態と言われ、特に母子家庭では半数が貧困状態だとされている



「貧困と格差」広がる日本
くらしの実態見ない市長

「後期高齢者医療特例軽減継続を」
全会一致で意見書採択

2008年度から始まった後期高齢者医療制度は、日本共産党だけでなく、民主党もマニフェストで廃止を掲げざるをえなかったほど、ひどい制度です。導入した自公政権は、所得の低い人たちには国民健康保険と同じように保険料を2割、5割、7割軽減とする予定でしたが、国民の批判を前に、当初から特例として7割軽減を最大9割に拡大。ところが政府は、2017年度から特例軽減をやめるとしており、加入者の半数以上が負担増になることから、党議員団は特例軽減の維持・継続を求める国への意見書を提案し、全会一致で採択されました。

市長提案の予算案は
賛成多数で修正

市長提案の「広報アドバイザー」と「西宮の休日」の2つの予算案について、党議員団は、「市長の偏向報道発言等、これまでの広報姿勢について懸念があり、広報の公平性が担保されるか疑問である」と指摘。また、

「西宮の休日」については、「『まちたび博』として市民に知られており名称を変更する必要がなく、今まで通りのやり方で事業を実施すべきだ」と主張。2つの事業を削減する修正案が賛成多数で可決されました。

ることについて質問。市長は「就学奨励金の受給者はここ数年、16%から17%台の水増しで推移し、子どもの貧困対策については早急に取り組んでいかねば

ならない重要な課題だと認識している。子どもの貧困についての現状を把握し必要な支援につなげたい」と答弁しました。

実現しました

【新】は新規事業、施策

- ・留守家庭児童育成センターで通年4年生受入れ 4か所でモデル実施（鳴尾、上甲、西宮浜、高須）
- ・育成センター 夏休み等の開所時間を8時に繰り上げ 4か所モデル実施（か所は未定）
- ・【新】 こどもの貧困対策調査・体制整備計画策定
- ・【新】 寡婦（夫）控除のみなし適用で、婚姻歴のないひとり親家庭の保育料等を軽減
- ・【新】 保育士確保のため、資格取得費への補助等
- ・訪問型病児保育に助成
- ・【新】 自治会等の防犯カメラ設置に補助金交付、17年度から市直営へ
- ・【新】 防犯灯の市直営化とLED化
- ・【新】 甲子園浜に消防訓練施設
- ・【新】 西宮消防署建て替え（測量委託）
- ・【新】 阪急西宮北口駅以東の神戸線踏切解消（連続立体交差）に関する予備調査
- ・【新】 耐震化促進のため住宅建て替え補助金交付
- ・【新】 空き家対策実態調査と対策計画策定
- ・香櫨園小の増改築（基本設計・実施設計）
- ・西宮養護学校改築（現地建て替え、工事中は尼崎養護学校へ仮移転の設計方針策定）
- ・【新】 春風小、安井小校舎増改築、深津小校舎増築
- ・小学校普通教室・特別教室へのエアコン設置11校（これで小中すべて設置）
- ・小中学校へのエレベーター設置3校と、未整備の残り5校の設計業務
- ・重度障害者の訪問入浴を週1回→週2回
- ・福祉タクシーの対象を精神障害者にも拡大
- ・【新】 河原町の新体育館・新陸上競技場整備（地盤調査、基本計画策定着手）
- ・【新】 染殿町の総合福祉センター再整備（旧わかば園解体、いすみ園移転新築に着手）
- ・西宮浜総合公園・御前浜公園整備（スポーツ広場、入り口公園等工事）
- ・【新】 旧芦原小学校グラウンド再整備（測量、基本設計等）
- ・【新】 アクタ西宮ステーション5階へ移転増床と業務拡大

どうなる要支援者の介護保険

国は要支援者として認定された高齢者の訪問介護と通所介護を保険給付からはずし、市が実施する「新総合事業」に移行させます。

訪問介護のうち家事援助については専門職のヘルパーによるものではなくります。しかし、ヘルパーは単なる家事援助者ではなく、要支援者の心身状態を把握し在宅生活を支える専門職

で、高齢者にとっては命綱の役割を果たしています。

保険料は年金から天引きしながら介護を取り上げる改悪は許せません。



防犯カメラ補助

2017年度からは市が直接設置

事件の解明や犯罪防止に役立つ防犯カメラ（設置費は一台につき20万円前後）。新年度予算では新たに、自治会が設置する場合に市が一台16万円の補助を出す制度を提案。しかし、防犯については市が責任を持って行うべきであることから、補助ではなく市の直営でやるべきとわが会派も賛同した予算の修正案が提案され



ました。質疑の中で当局から、補助制度を続けながら一年後には直営で設置を進める旨の答弁がなされたことから、修正案は取り下げられ、直営化される見通しとなりました。

育成センター(学童保育)

留守家庭児童育成センターの長期休業時の開所時間が8時30分では遅すぎるという要望を受け、市は延長料金を徴収して8時開所にしたい、まず4か所でのモデル事業を実施すると提案しました。保育所の開所時間は7時〜7時30分であり育成センターの開所時間繰り上げは当然で、延長料金はとるべきでないと日本共産党市議団は追及。市

は「受益者負担を求める延長料なしなら育成料の値上げも検討」等と開き直りましたが、各センターで施設などに大きな差がある中で値上げを口にするなど言語道断ときびしく批判しました。各委員からも反対意見が続出し、延長料金徴収は全会一致で否決され、延長料金なしで開所時間繰り上げが実現します。

開所時間繰り上げへ延長料金徴収は否決

UR借り上げ住宅

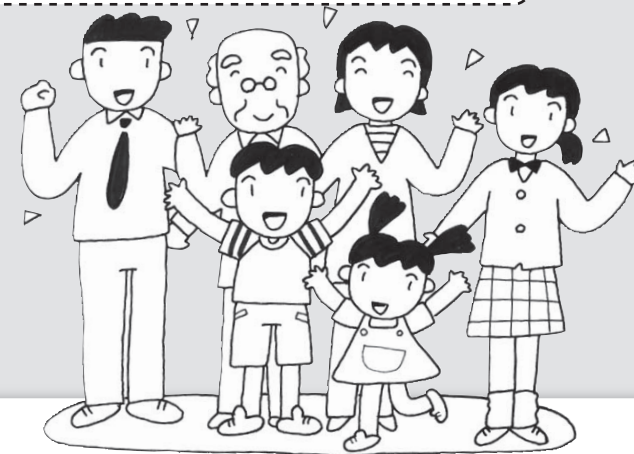
3月議会では、昨年12月議会で継続審議となっていた、阪神淡路大震災の被災者が入居する借り上げ市営住宅の明け渡しを求める提訴議案が、賛成多数で可決されました。日本共産党市議団と無所属議員の一部は反対。

西宮市はURとの契約期限を理由として、入居している人の個別事情をいっさい考慮することなく他市と比べて最も冷たい一律転居を迫っているべきです。



入居者追い出し裁判へ話し合い解決に努力すべき

今議会では、新年度予算案以外にも重要な議案が審査されました。いくつか紹介します。



水道料金

3月議会では「水道事業給水条例」が改正されました。市は水需要低迷で給水収益減少が続く中、今後の人口減少や施設の老朽化等に対応するため、料金制度の変更を行なうと説明。これまで「基本水量制」として10㎡までは実際の使用の如何にかかわらず、1040円の定額徴収としていたもの

を廃止し、使用量にあわせて従量料金を上乗せします。また、平均で月額103円、6・78%の料金値上げを提案しました。日本共産党市議団は、この値上げについては賛成できないことを表明する一方、これまで市議団が要求していた「基本水量制の廃止」が実現し、

約2割の世帯で料金の値下げになったことを評価して改正条例については採決に加わらず「退場」しました。



「基本水量制」は廃止へ一方、料金は引き上げ



議員報酬カットを

今議会、市長報酬10%削減の議案が提出されたことから高い議員報酬を10%引き下げる議案を日本共産党市議団は無所属の6名とともに共同提案しました。

西宮市は、中核市45市で市議は2位、正副議長では1位という非常に高い報酬で、引き下げの提案は当然です。ところが、反対派議員は「成立のため

中核市2位の議員報酬10%減額を提案



「保育所落ちた！」西宮では843人

「保育園落ちた・・・」のブログが大注目され、政治を動かしています。西宮市でも0歳〜5歳を預かる認可保育所への4月入所申込みは約2500人、〆落ちた。人（＝不承諾）は843人です。

ここから転居などがあれば繰上げ〆当選。し、4月中旬には多少減少するものの、昨年は469人が保育所に入れませんでした。

厚労省はこの不承諾数から、①小規模保育所や保育ルームなど2歳までしか入れない施設にとりあえず入所した②育休を延期した③自宅で求職中、などを除外して「待機児童数」を報告させています。（昨年の市の「待機児童数」は76人）

見せかけの数字を減らし、希望に見合った認可保育所の整備をおこなっているのです。また、小規模保育所や保育ルームを増設したために、3歳からの入所先が見つからない「3歳の壁」も新たに問題となっています。

実態に基づいた抜本的な認可保育所の増設と保育士の待遇改善等が急務です。

2017年4月からの新制度

一般質問

春風小学校いよいよ建て替え



野口あけみ議員

やく実を結びました。な 新年度には増設されること
お不足しているトイレは、 となりました。

就学奨励・入学準備金は
3月支給に変更を

次に野口議員は「子ども もの貧困」対策について

医療給付費の過大見積りをただし

積み立てられた「基金」活用で、
国民健康保険料を引き下げよ

上田さち子議員

どころか上がる一方。例

えばこの8年間で所得2
00万円・4人家族の場
合26400円も引き上

げられ、一般会計繰り入
れの目的が生かされてい
ないと指摘。さらに、国

保のしくみでは、1年間

上田さち子議員は、6
万3千世帯が加入する国
民健康保険の保険料が
「なぜ、こんなに高いの
か」と質問。

西宮市は2008年度
から高すぎる国保料を抑
制するために一般会計から

2億5000万円、201
2年度からは10億円を繰

り入れてきました。しか
し、保険料は抑えられる

質問。

新年度には昨年の9月
議会で求めた「貧困実態
調査」が行われますが、
養護教諭や保育士、家庭
相談員など子どもに直接
接している職員から実例
を聞きとる等の努力を求
めました。また、団で視
察した栃木県小山市を例
に挙げ、具体的目標を持
った貧困撲滅計画をたて

て対策を進めるよう求め
ました。野口議員はさら
に、経済的に困難な世帯
に、学校経費の一部を支
給する就学奨励金の内、
入学時の準備金支給を現
行の7月から3月に変更
するよう提案しました。

市は、現時点では実施困
難としながらも、3月へ
の変更は一定の支援にな
るので先進例を研究する
と答弁しました。

JR福知山線廃線敷き
ついに一般開放へ

年間約64000人がハイキングに訪れるJR福知山線廃線敷き。宝塚市側は正式なハイキング道として整備されていますが、西宮側は立ち入り禁止の看板が立てられたまま。党議員団は武庫川の自然保護団体などとともに一般開放を繰り返し求めてきました。

このたび市長の新年度施政方針で、「JRが所有したまま一定の安全策を講じ、トイレの整備や日常管理は西宮市が行うことで合意」と表明しました。

5月の連休明けから一旦通行禁止にした上で工事にかかり、秋の紅葉シーズンまでには西宮側も正式なハイキング道となる予定です。

中小企業振興条例制定で
地域経済の活性を

杉山たかのり議員

くものと批判し、「地域
経済の活性化は市の役割
だ」と、昨年制定した兵
庫県に続き、市も中小企
業振興条例を早期に制定
すべきと求めました。

市当局は県条例を「地
域経済と雇用を支える中
度だ」と答弁しました。

国道43号の横断歩道橋に
エレベーター設置を！

次に、杉山議員は、国

にあげ50mもの道路を多
数の人や自転車を通る中、
高齢者や障がいのある人
が横断するのは大変だと、
横断歩道橋へのエレベー
ター設置を求めました。

すでに、尼崎、神戸、
芦屋の3市には43号線に
エレベーターの設置され
た横断歩道橋があるにも
かかわらず、西宮市だけ
一か所ありません。

市は「利用者が多く、
迂回ルートがないなど、
一定の要件を満たす箇所
にはエレベーターの設置
が望ましい。国に働きか
けたい」と答弁しました。

学校のトイレ洋式化、
早期に50%めざします

上田議員は、トイレの
洋式化についても質問。

市民が多く訪れる市役所
1階のトイレ洋式化は2